

命の理りかたじけなくおそれ思ひければにや、俄に立太子のさた有しに、龜山は此君醍醐をすゑたてまつらんと思しめして、八幡宮に告文ををさめ給ひしかど、一の御子さしたるゆゑなく、てすてられがたき御事なりければ、後二條を居給へりし、

〔二代要記後十五條〕太子富仁親王

〔皇年代略記花園〕諱富仁、伏見院第二皇子、後伏見院御猶子、中略正安三年八月廿四日立太子、

〔二代要記花園十五〕太子尊治親王

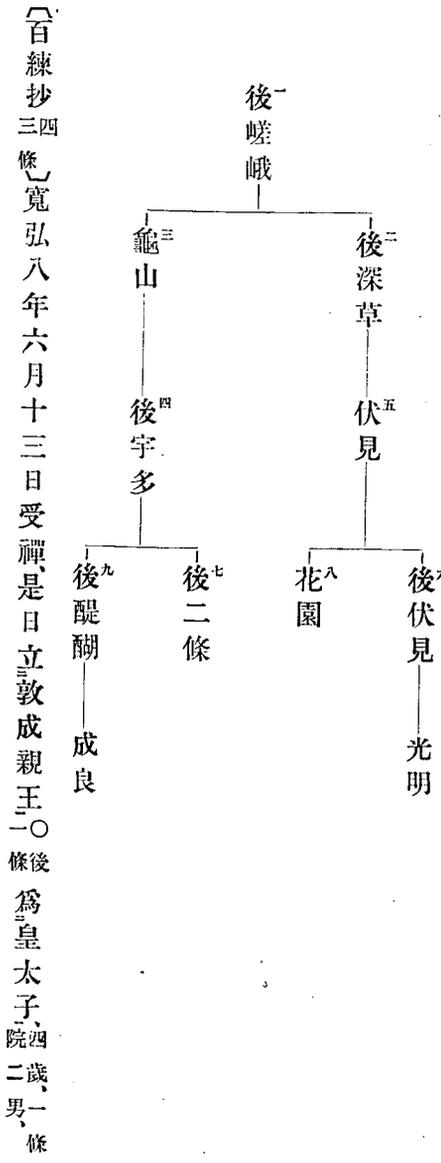
〔皇年代略記後醍醐〕諱尊治、後宇多第二皇子、中略德治三年九月十九日立太子、廿一、後二條院有法事、皇被仰、關東有沙汰、

〔皇年代略記光明〕建武三年十一月十四日、以先帝醍醐皇子成良親王爲皇太子、

○按ズルニ、後二條天皇ノ後伏見天皇ニ於ケル、花園天皇ノ後二條天皇ニ於ケル、後醍醐天皇ノ花園天皇ニ於ケル、共ニ再從兄弟ニシテ太子トナリタマヒシナリ、而シテ成良親王ノ光明天皇ニ於ケルハ、三從兄弟ニシテ太子トナリタマヒシナリ、其系左ノ如シ、

從姪爲太子

三從兄弟爲太子



〔百練抄三四條〕寛弘八年六月十三日受禪、是日立敦成親王、後一條爲皇太子、四歲、一條